

農林水産省委託事業

令和元年度GAP導入影響分析のための調査委託事業

報告書・概要

令和2年3月

株式会社政策基礎研究所

令和元年度GAP導入影響分析のための調査委託事業

目的

GAP認証取得前後の変化を分析し、GAPの意義や効果を「見える化」

調査の概要

本調査は、令和元年5月末時点でGAP認証（GLOBALG.A.P.、ASIAGAP、JGAP）を取得している農業者及び団体を対象※に、令和元年9月下旬から同年12月上旬にかけてGAP認証取得前後における影響分析等に関するアンケート調査を実施し、589経営体、107団体から回答を得た結果である。なお、取りまとめに際し、調査実施者による分析等を加えている。

※農業教育機関を除く青果物・穀物・茶の品目に限る。

【アンケートの回収結果】 ※認証の種類が無回答だった10経営体及び2団体を含む。

個別 認証	調査対象	1,138
	農業者回収数①	461
	回収率	40.5%
	農業者回収数合計 (①+②)	589

団体 認証	調査対象	224
	事務局回収数	107
	回収率	47.8%
	農業者回収数②	128

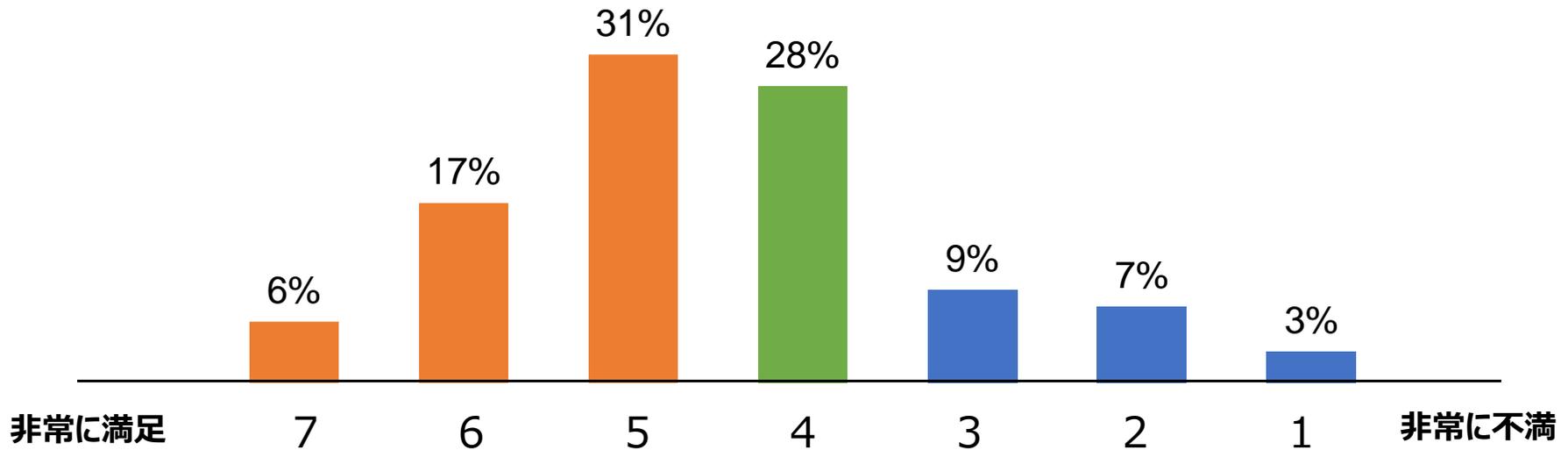
【調査対象数（母数）の把握方法】

GLOBALG.A.P. ⇒ GLOBALG.A.P. Searchで検索し把握できたもの
ASIAGAP及びJGAP ⇒ (一財)日本GAP協会の農場検索で把握できたもの

1. GAP認証導入による効果の満足度

回答結果（有効回答数：575）

＜個別経営体及び団体認証の構成経営体の場合＞



	満足 (7,6,5)	普通 (4)	不満 (3,2,1)
回答者数	307	160	108
回答割合	53%	28%	19%

※構成割合は、グラフ・表ごとに表示単位未満を四捨五入しているため、内訳の計が100%とならない場合及びグラフ・表で計が一致しない場合がある（以下同じ。）。

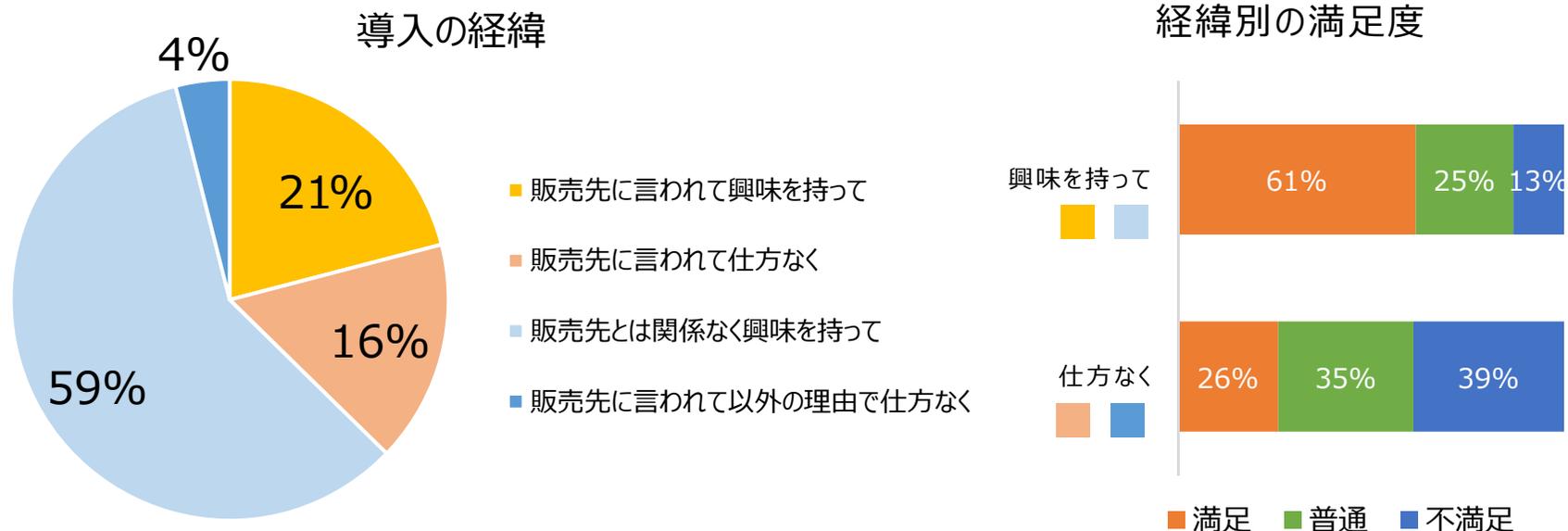
分析

- GAPに取り組んだ者の過半数がGAPに取り組むことで得られた効果に満足していると回答。
- 一方、効果に不満を持っている者は、全体の2割弱程度。

2. GAP認証導入の経緯

回答結果（有効回答数：577）

<個別経営体及び団体認証の構成経営体の場合>



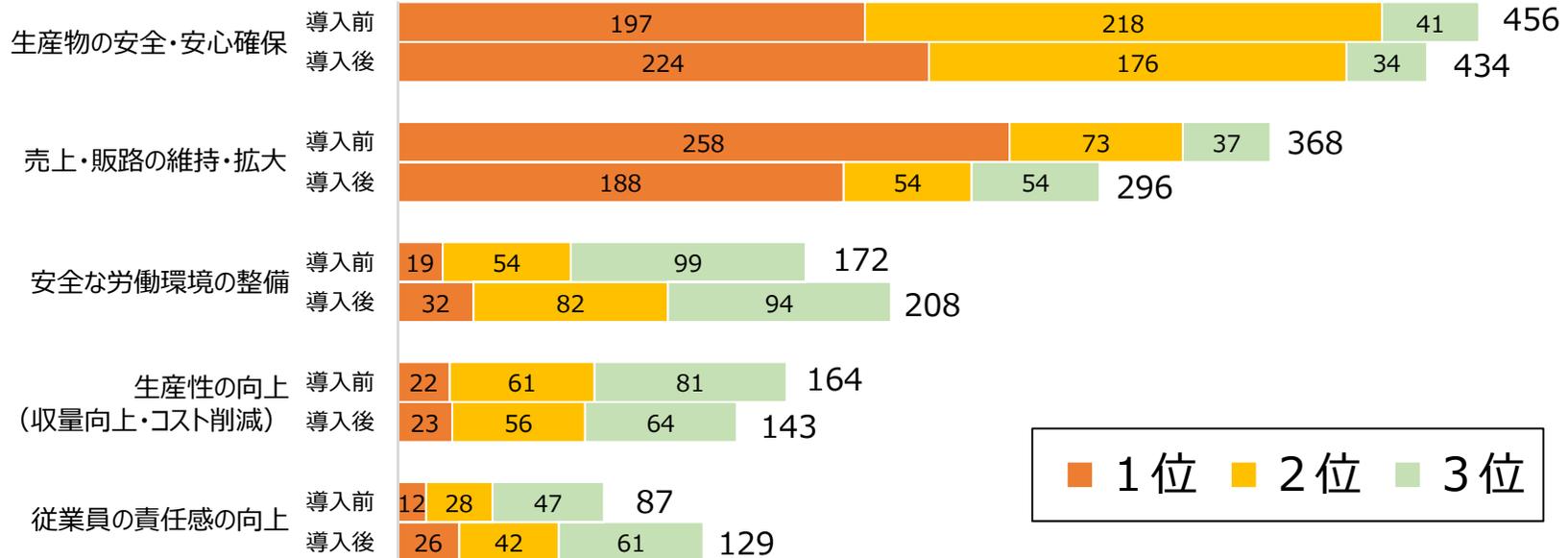
分析

- 「販売先とは関係なく興味を持って」が59%と最も多く、「興味を持って」導入した者が80%を占めている状況。
- また、「興味を持って」導入した者の方が、GAP認証導入による効果に満足する傾向にあった。
- こうしたことから、GAPの認証取得拡大を図るためには、まずは農業者にGAPに関心を持ってもらうことが重要と推察される。

3. GAP認証に取り組む目的

<個別経営体及び団体認証の構成経営体の場合>

回答結果



※設問では、優先順位の高い順に1位～3位まで回答を求めており、集計に当たってはこれらを合算し、導入後の上位5項目を抜粋した。
なお、順位別の有効回答数は以下のとおり。

導入前：1位566、2位543、3位532 計1,641 導入後：1位565、2位547、3位536 計1,648

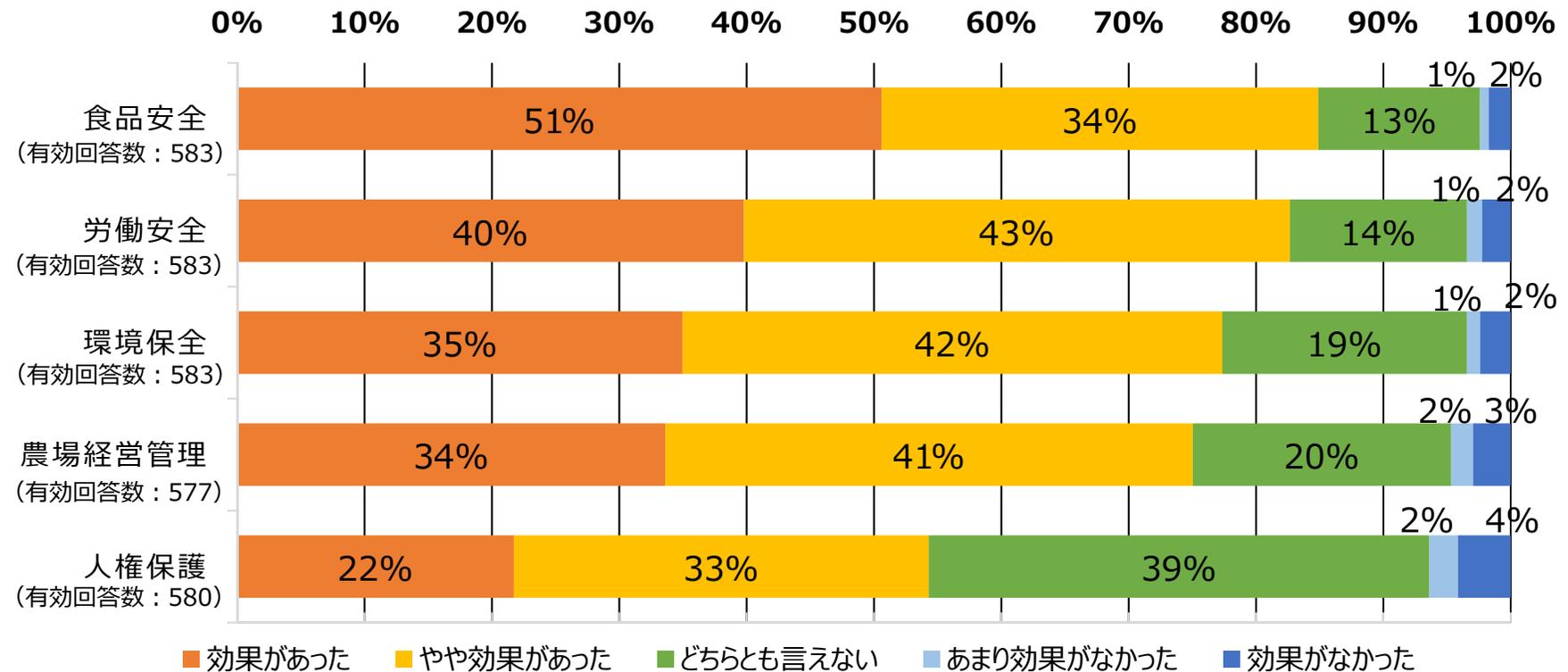
分析

- 導入前後とも共通して、「生産物の安全・安心確保」及び「売上・販路の維持・拡大」が上位を占めており、農業者はGAPに食品安全や販売への効果を求めている状況。
- 一方、項目ごとの回答数を見ると、導入後は「安全な労働環境の整備」及び「従業員の責任感の向上」が上昇。これは、GAPに取り組む中で、これらの効果を実感したものと推察される。

4. 分野別のGAPの取組効果

回答結果

<個別経営体及び団体認証の構成経営体の場合>



分析

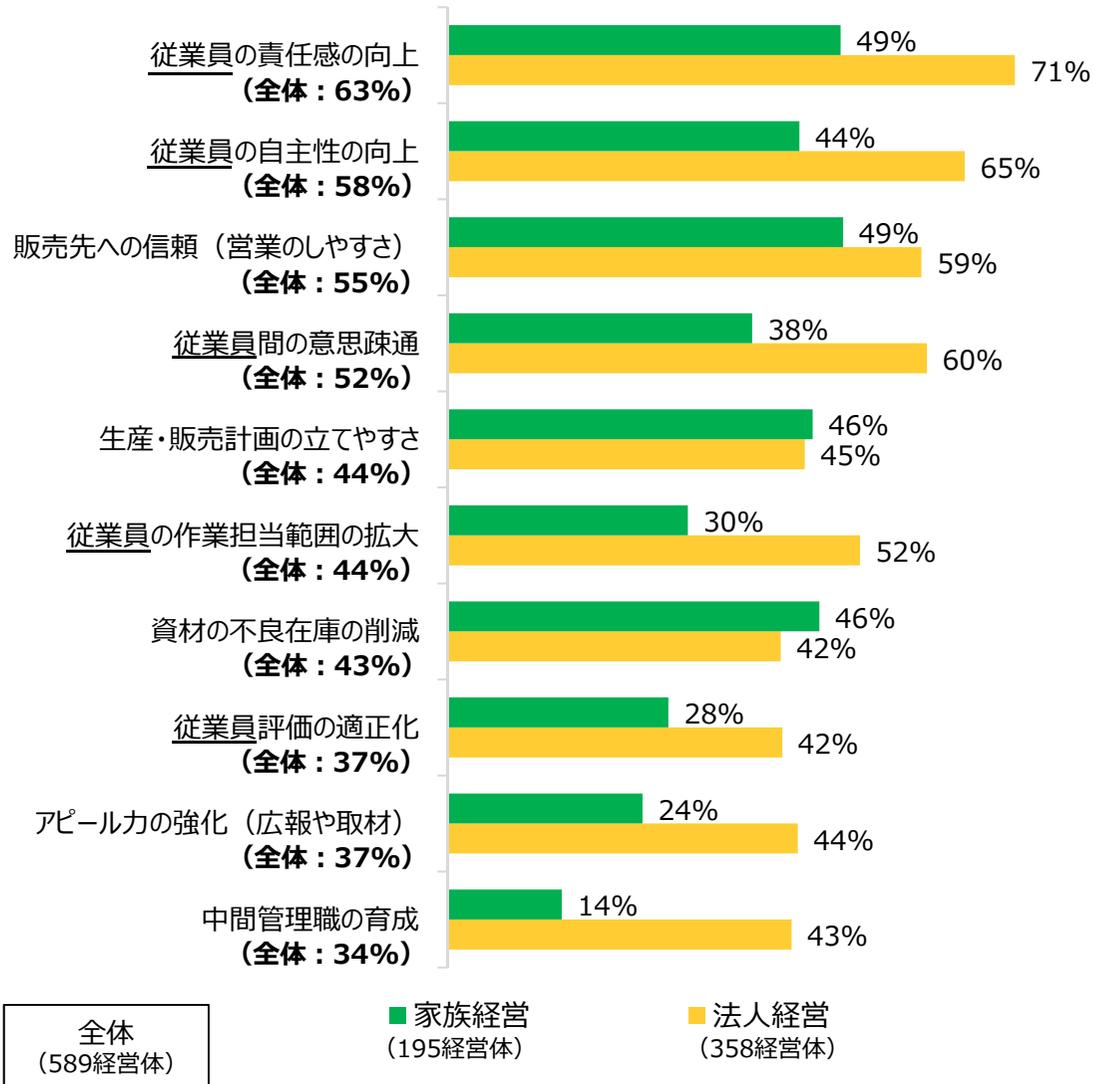
- いずれの分野においても、過半数がGAPに取り組むことで効果があったと回答。
- 特に、食品安全及び労働安全はいずれも80%超と、大半が何らかの効果を実感。
- 一方、人権保護については、他の分野と比較して効果があったとの回答割合は55%と低く、どちらとも言えないとの回答割合は39%と高い。これは、人権保護は他分野と比べ、取り組んだことによる効果を農業者が意識しづらかったものと推察される。

5. GAP導入前後の改善状況

回答結果

<個別経営体及び団体認証の構成経営体の場合>

28項目について、「かなり改善した」「改善した」「やや改善した」と回答した者の割合が高い順に上位10項目までを整理



※全体には、経営形態が不明の36経営体を含む。

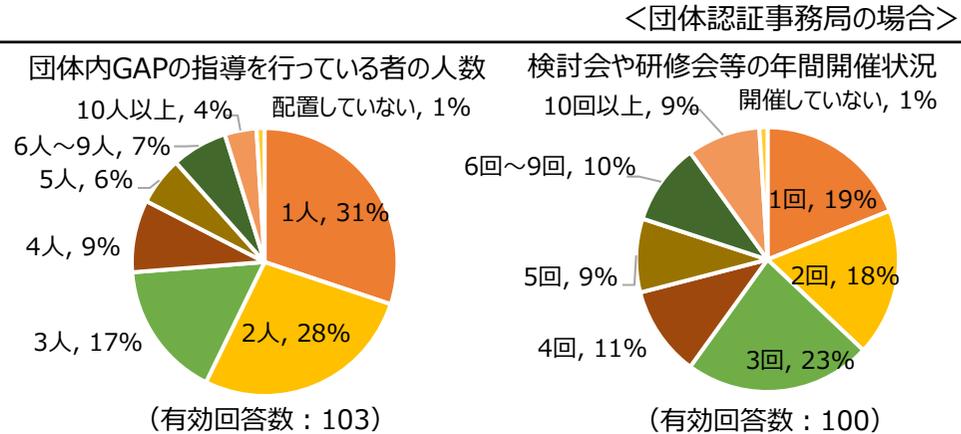
分析

- 上位10項目のうち、従業員に関する効果の項目が半数を占めたこと、また、法人経営の方が改善したと回答した割合が高いことなど、GAPは従業員の意識改革に有効。
- 農業生産に関する効果のうち、「販売先への信頼 (営業のしやすさ)」「生産・販売計画の立てやすさ」「資材の不良在庫の削減」については、家族経営と法人経営で割合に大きな差異はなく、経営形態に関わらず効果を発揮。

6. 団体認証の事務局体制

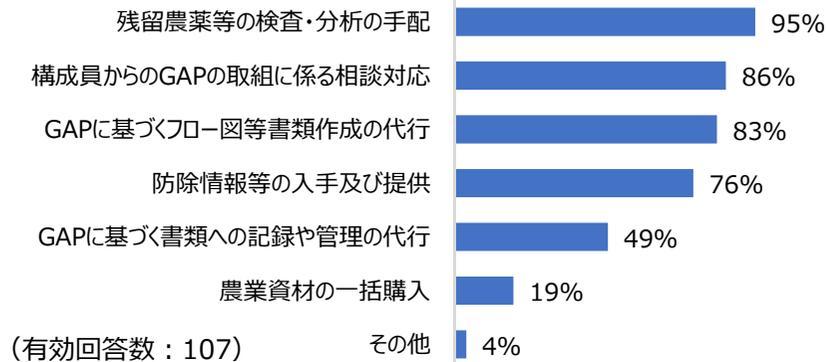
回答結果 1 : 団体内でのGAP指導體制

- 団体内にGAP指導者を配置したり、定期的に農業者を集めた研修会等を開催することで、農業者によるGAPの取組をサポート。



回答結果 2 : 団体認証事務局が行う事務

団体認証事務局が行う事務 (複数回答)

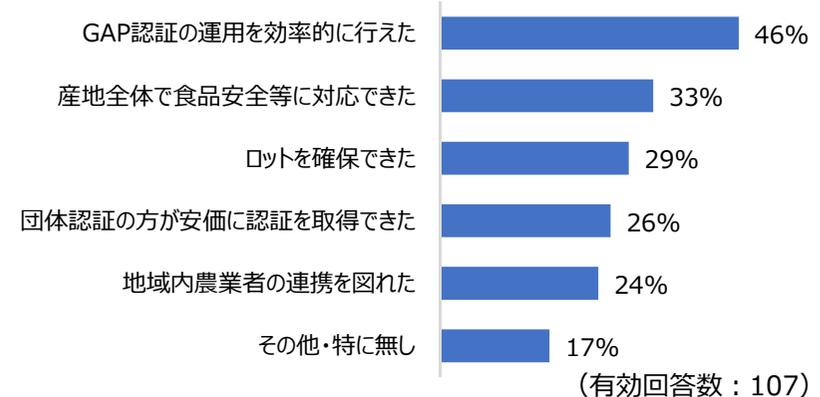


- 残留農薬検査等の手配やGAPの取組にかかる相談対応、書類作成の代行等の事務を農業者の代わりに団体認証事務局が担うことで、農業者の事務負担を軽減。

回答結果 3 : GAPの効率的な実施

- 団体認証事務局の46%が、団体認証によってGAP認証の運用を効率的に行えたと回答。

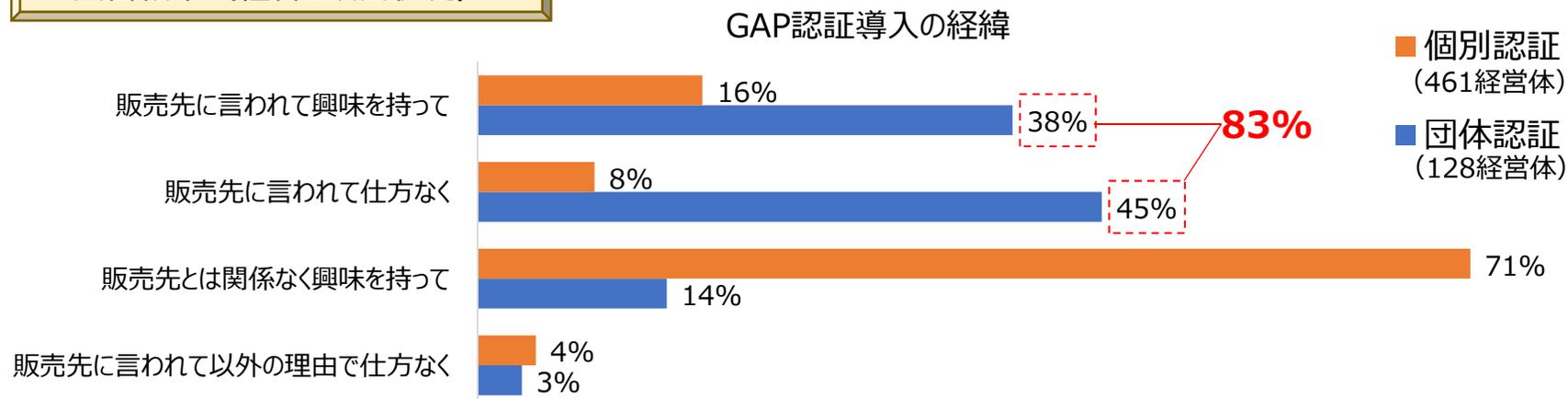
団体認証取得の成果 (複数回答)



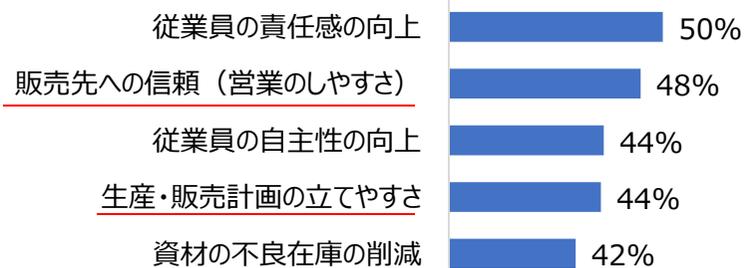
7. 個別認証との比較による団体認証の傾向①

<個別経営体及び団体認証の構成経営体の場合>

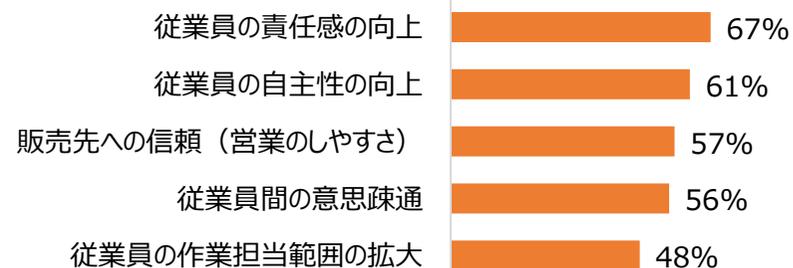
回答結果（経緯と改善状況）



改善状況（団体認証）上位5項目



改善状況（個別認証）上位5項目



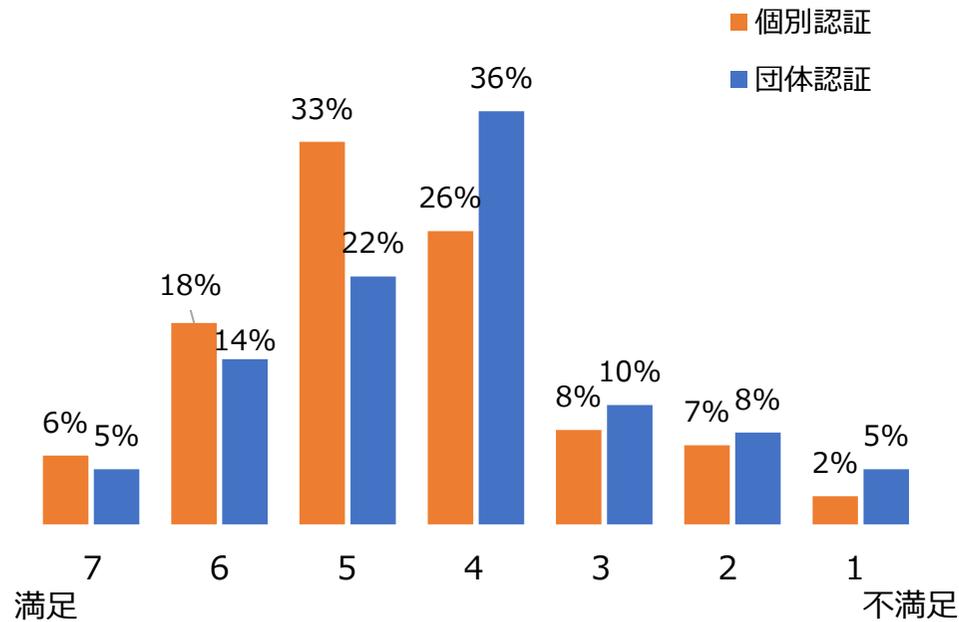
分析

- 導入した経緯について、団体認証の構成経営体の8割以上が「販売先に言われて」と回答。
- また、改善状況においても、「販売先への信頼（営業のしやすさ）」や「生産・販売計画の立てやすさ」の回答が個別認証と比べて上位に来ている状況。
- このように、団体認証では販売関係を重視している傾向が見受けられる。

8. 個別認証との比較による団体認証の傾向②

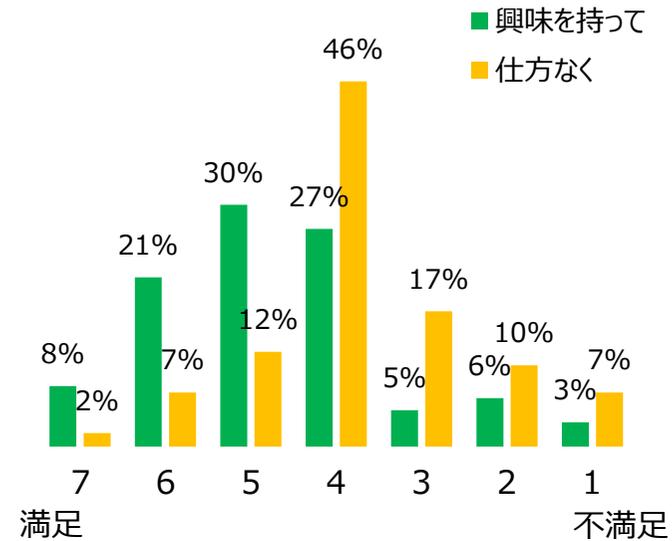
＜個別経営体及び団体認証の構成経営体の場合＞

回答結果（満足度）



	満足 (7,6,5)	普通 (4)	不満 (3,2,1)
個別認証	57% (256経営体)	26% (115経営体)	18% (79経営体)
団体認証	41% (51経営体)	36% (45経営体)	23% (29経営体)

団体認証における経緯別の満足度



分析

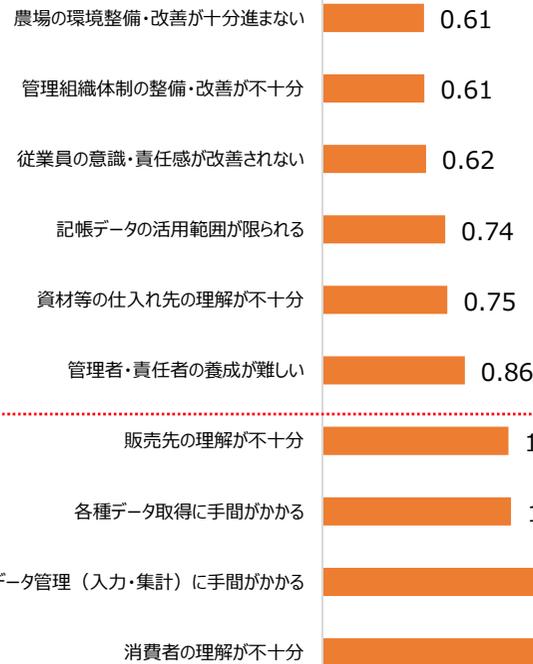
- ▶ 満足度については、個別認証と比べて普通寄りの傾向が見られる状況。
- ▶ これは、経緯別の満足度を見ると「仕方なく」と回答した者の約半数が普通（4）と回答しており、農業者のGAPに取り組むスタンスの違いによるものと推察される。

9. 農業者が回答したGAP認証導入後の問題点

<個別経営体及び団体認証の構成経営体の場合>

回答結果 (589経営体)

個別経営体 (461経営体)



団体認証の構成経営体 (128経営体)



【集計方法】
項目ごとの問題の度合いを
選択肢に応じて点数化し、
その合計を平均化。
点数が高いほど、問題の
度合いが大きい。

選択肢	点数
かなり問題	3
問題	2
やや問題	1
問題ない	0

点数の高かった4項目は
個別・団体ともに共通

分析

- 全体的に団体認証の方が問題の度合いが低い傾向にあるものの、個別認証・団体認証ともに半数以上の項目で1点を下回っており、概ね問題がないと認識している状況。
- 一方、点数の高かった項目も共通しており、消費者や販売先の理解が不十分なこと及びデータの取得や管理 (入力・集計) に手間がかかることを農業者は問題と認識。

10. 団体認証事務局が回答した問題点及び今後の課題

＜団体認証事務局の場合＞

回答結果（回答数：107団体）

GAP認証導入後の問題点（複数回答）



団体として必要と考えていること（複数回答）



【集計方法】

項目ごとの問題の度合いを選択肢に応じて点数化し、その合計を平均化。点数が高いほど、問題の度合いが大きい。

選択肢	かなり問題	問題	やや問題	問題ない
点数	3	2	1	0

【集計方法】

項目ごとの必要の度合いを選択肢に応じて点数化し、その合計を平均化。点数が高いほど、必要の度合いが大きい。

選択肢	かなり必要	必要	やや必要	問題ない
点数	3	2	1	0

分析

- 問題点の傾向は、農業者の回答と同様で、消費者・販売先の理解が不十分等が共通の問題と認識。
- また、問題点・必要なことの双方の設問で、GAPに取り組むことのメリットに関する回答が上位に来ており、団体認証においては、GAPに取り組むことのメリットが明確でなく、農業者に十分伝わっていないことが課題。

11. 要点

- GAPに興味を持ったことが、GAPに取り組むきっかけとなっており、かつ満足度が高くなる傾向にあるため、まずは農業者にGAPに関心を持ってもらうことが重要。
- GAPの導入目的としては、主に食品安全や販売面が上げられるが、GAPに取り組む中で、労働安全や従業員の意識改革に関する効果を実感する傾向。
- GAPによる主な効果としては、従業員の意識改革や販売先への信頼などがあり、特に従業員を雇用する法人経営において効果を発揮。
また、分野別では、特に食品安全や労働安全に対して効果を実感する傾向。
- 団体認証は、団体内に指導体制や事務局が整備されていることで、効率的な運用が可能となっており、販売関係を重視してGAPに取り組んでいる傾向。
- 「消費者や販売先の理解が不十分」や「データ管理等に手間がかかる」が共通の問題。
- 団体認証においては、GAPに取り組むメリットが明確化されておらず、団体内の農業者に対して十分に伝わっていないことが課題。